

広報誌で紹介した写真または
データをご希望者に提供します。

●お申し込み●

秘書課広報広聴係 ☎ 23-3069 へ

金沢会館「わくーる」が完成

(11月28日)

金沢会館完成を祝い、地域住民など約50人が参加をして落成祝賀会が開催されました。

同地区の川邊町内会長は「金沢地区の地域振興のために有効活用したい」と抱負を述べました。

泉亭町長は、「この会館は町内会のコミュニケーションを図るだけでなく地域の活性化や医療大学生、町内外の方々に広く利用してもらい、地域会館利活用のモデル的な役割を果たして欲しい」ことを期待しました。この会館は財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業の支援を受けて建設されました。



学生も住み良いまちに

(12月10日)



北海道医療大学の学生と泉亭町長は役場で、学生の住みよい町について懇談しました。

学生からは、町のイベント情報を知りたい、夜間営業している飲食店を確認したい、アパートの改善などの提案がされました。

町長は、JR当別駅と医療大学前駅にふくろう型掲示板の設置やアパートへの改善申し入れ、町ホームページの活用など説明しました。

さらに、当別の良さを理解してもらおうと農家での短期ホームステイ（農家民宿）を検討していることを説明し、学生にも魅力ある当別をアピールしました。

「水田発祥の地」石碑が完成

(12月7日)



町が若葉に整備している「美しい農村公園」に、当別で初めて稲作を試みた地を記す、「水田発祥の地記念碑」が完成し、地域住民や関係者など約85人が参加し除幕式が行われました。

泉亭町長は、「本町の稲作は明治5年に故瀬戸勘三郎さんがこの地で試作を行ったことに始まり、多くの困難と努力を重ね、明治17年に中小屋地区での収穫が成功し発展してきた。先人の苦勞、努力を忘れず、碑に込められた想いが代々伝わってほしい」と挨拶しました。

除幕には、瀬戸さんの子孫、瀬戸英規さんご夫妻（園生）も参加し感慨深げに石碑を見つめていました。

どうなる年金？セミナーで学ぶ

(11月30日)



石狩支庁と町が行った「労働セミナー」に約50人の町民集まり、気になる年金の話などに耳を傾けました。

講師は年金や生活設計の相談などを手掛ける会社「プランDO」ファイナンシャルプランナーの須藤臣さんで、今後の改正される「公的年金」の仕組みや個人に応じた老後の生活設計の考え方など、事例を交えてわかりやすく解説しました。

参加者からは年金の負担額や受給額がどうなるのかなど質問が相次ぎました。

JR当別駅前にある「歯の健康プラザ」で、北海道医療大学がハーブティ教室を行いました。

同大学薬学部野口由香里先生がラベンダーやジャスミンなど15種類ほどの瓶詰めされたハーブの薬効や特徴、相性の良い組み合わせなどの説明しました。

ハーブティは西洋で昔から親しまれている飲み物でブレンドの仕方でも様な味を楽しむことができます。参加者は、好きなハーブを混ぜ合わせ、色や香りを楽しみながら自分だけのオリジナルのハーブティを味わっていました。



香り楽しむハーブティ教室

(12月4日)

最後のお餅つき ペットンコ

(12月10日)



今年度で廃止される北季節保育所(川村あつ子所長)で、お餅つき大会が開かれました。

朝から父母や職員が準備をし、10時から始まった餅つきに、児童13人も順番に杵を持ち上げました。順番待ちの児童は「ぺったんぺったん！」と掛け声をかけたり、歌を歌うなど楽しい餅つきになりました。出来上がったお餅は、丸められお雑煮に入れて、父母や児童みんなで楽しく食べていました。

心弾ませ米国でホームステイ

(12月7日)



町の人材育成基金を活用しアメリカで短期語学研修を行う高校生が、出発を前に泉亭町長に挨拶に訪れました。参加するのは、吉嶺大樹君と伊藤龍比古君(共にスウェーデンヒルズ・高校1年生)の2人で、12月23日から1月11日までの20日間アデラント市の家庭にホームステイしながら、英語レッスンや地元高校生と交流など体験します。

吉嶺くんは「観光旅行では学べないことを学んでみたい」、伊藤君は「アメリカという国をじっくり見てみたい」と目を輝かせていました。